

# 広報委員会の活動

## 広報紙「なみふる」発行

3か月毎の地震活動に加えて、**毎号3つの話題**について、**研究者等に分かりやすい記事**を執筆していただいています。今後も、**学会員の皆さんのご協力**をよろしく願います。

(ア)



地震と地球のことをもっと知っていただくために  
—広報紙の創刊にあたって—

地震研究の発展は、国家と密接して進んでいくことも重要な要素の一つです。しかし、地震学の発展には、国家の政策や、地震の被害の軽減、社会の発展に大きく貢献しています。しかし、地震学は、専門家だけでなく、一般の人々にも関心を持ってもらう必要があります。広報紙「なみふる」は、地震学の最新の研究成果や、地震の被害の軽減に関する情報を、一般の人々にもわかりやすく伝えることを目的としています。

(イ)



2018年3月～2018年5月  
主な地震活動

この号では、2018年3月～5月の主な地震活動を紹介します。また、地震学の最新の研究成果や、地震の被害の軽減に関する情報も掲載しています。ぜひご覧ください。

広報紙「なみふる」の表紙(ア)創刊号(イ)最新号

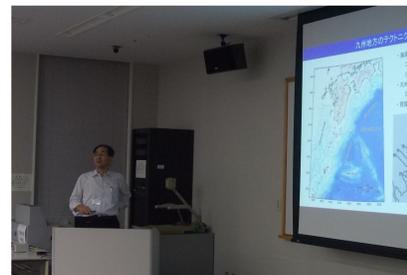
## 記者懇談会開催

報道関係者と地震学会の会員との意思疎通を目的として、1997年3月から記者懇談会を開催してきました。毎年、地球惑星科学連合大会と日本地震学会秋季大会に併せて、研究者等に**ホットな話題**や**開催地にゆかりのある話題**について講演していただき、マスコミ関係者と活発な議論がなされています。最近の話題提供の内容は表の通りです。

### 最近の記者懇談会の開催状況と話題提供者・講演内容

回(年) 開催地	話題提供者・題目
40(2016) 千葉市	松浦律子 地震予知総合研究振興会 「地震の長期評価について —布田川断層帯・日奈久断層帯と九州地域評価を例として」
41(2016) 名古屋市	山岡耕春 名古屋大学大学院環境学研究科 「日本地震学会のめざすもの」 田所敬一 名古屋大学大学院環境学研究科 「海底地殻変動観測で探るプレート間固着」
42(2017) 千葉市	小平秀一 国立研究開発法人海洋研究開発機構 「海域観測から南海トラフ地震に迫る」
43(2017) 鹿児島市	後藤和彦 鹿児島大学学術研究院理工学院理学系 「九州地方の地震活動」
44(2018) 千葉市	木下正高 東京大学地震研究所 「南海トラフ巨大地震に掘削で迫る～下からのぞく地震発生帯～」
45(2018) 郡山市	澤井祐紀 国立研究開発法人産業技術総合研究所 「地質記録が明らかにした東北地方の巨大津波」

10月9日 18:30～  
C会場で開催予定



第43回(2017年)鹿児島市での後藤氏の講演の様子



第44回(2018)千葉市での木下氏の講演の様子

## 「なみふるギフト」への参加のお願い

現在約80校へお届け中

教育の現場に「なみふる」を！  
会員の皆様、ご協力をお願いします！

自分の母校やお子さんの学校等に寄贈する  
「なみふるギフト」制度

年額600円

お申し込みは  
学会事務局へ

理科や社会の授業のほか、  
防災訓練やクラブ活動など  
活用の機会は多数

現在、財政面の都合で、学会から全国の  
小中高校への寄贈は困難なのです。

## 質問対応

一般の方からの質問対応及びマスコミからの問い合わせを担当しています。

## なみふるメーリングリスト運営

地震研究者と一般の方々との意見の交換の場として、**メーリングリスト「nfml」**を1997年から開設しています。これは、**地震に関する知識の交換・普及活動の一環**です。地震研究者と社会との交流に役立ち、研究成果を社会へ還元していく上で少しでも貢献できますよう、希望する次第です。

## 地震学会ホームページのFAQの更新

地震学会ホームページ (<http://www.zisin.jp/>)の一般の方への情報やFAQを担当しています。



QRコード  
地震学会FAQ



ご意見等は広報委員会までお知らせください。